

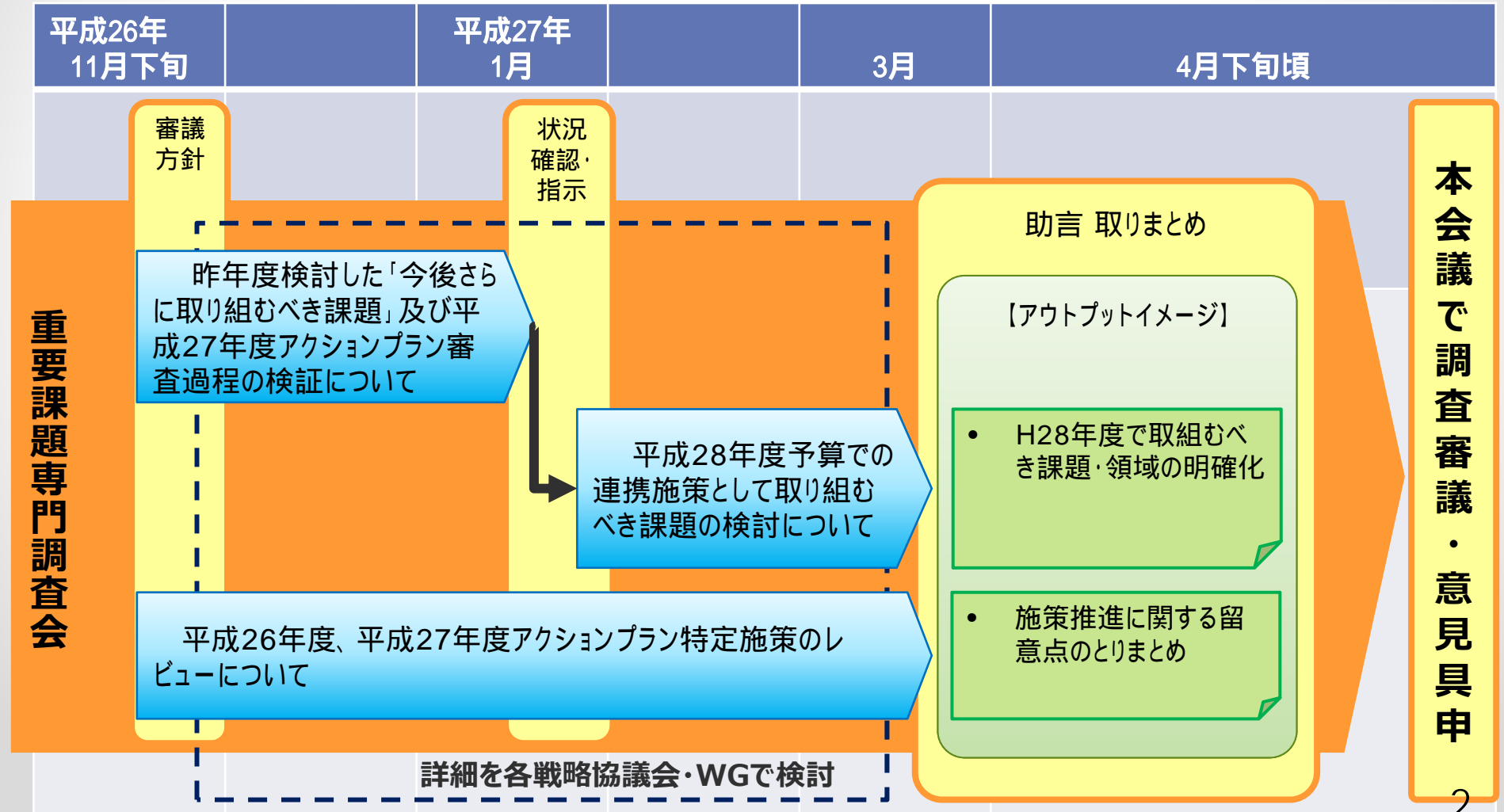
平成 2 6 年度 I C T - W G の進め方について (案)

平成 2 6 年 1 2 月 9 日

I C T - W G 事務局

平成26年度重要課題専門調査会の審議方法について

- ◆ 重要課題専門調査会において4期基本計画及び科学技術イノベーション総合戦略に掲げられた当面取り組むべき重要な課題並びに今後さらに取り組むべき課題全体を扱う
- ◆ 詳細な調査・検討を各戦略協議会・WGで行う



昨年度検討した「今後さらに取り組むべき課題」及び 平成27年度アクションプラン審査過程の検証について 平成28年度予算での連携施策として取り組むべき 課題の検討について

第4回重要課題
専門調査会 資料3
(平成26年11月27日)

- ◆ 総合戦略2014に新たに設定した検討課題と各府省から提案のあったアクションプラン対象施策
 - ◆ 平成27年度アクションプランの審査過程
- 上記2点について検証し平成28年度予算での連携施策として取り組むべき課題をとりまとめる。

実施内容	進め方（案）	成果の活用
1. 総合戦略2014に新たに設定した検討課題と各府省から提案のあったアクションプラン対象施策の検証	◆ 総合戦略2014に新たに設定した検討課題について、アクションプラン対象施策として提案がなかった課題を明確化、問題点の抽出を行い、再整理する	● 平成28年度予算での連携施策として取り組むべき課題のとりまとめ（プライオリティ付け、連携の先導体制）
2. 平成27年度アクションプランの審査過程の検証	◆ 平成27年度アクションプランの審査過程における問題点を抽出し、改善点について検討	

については専門調査会（戦略協議会・WGを含む）構成員にて議論を行う
については各省関係機関等が参画し議論を行う

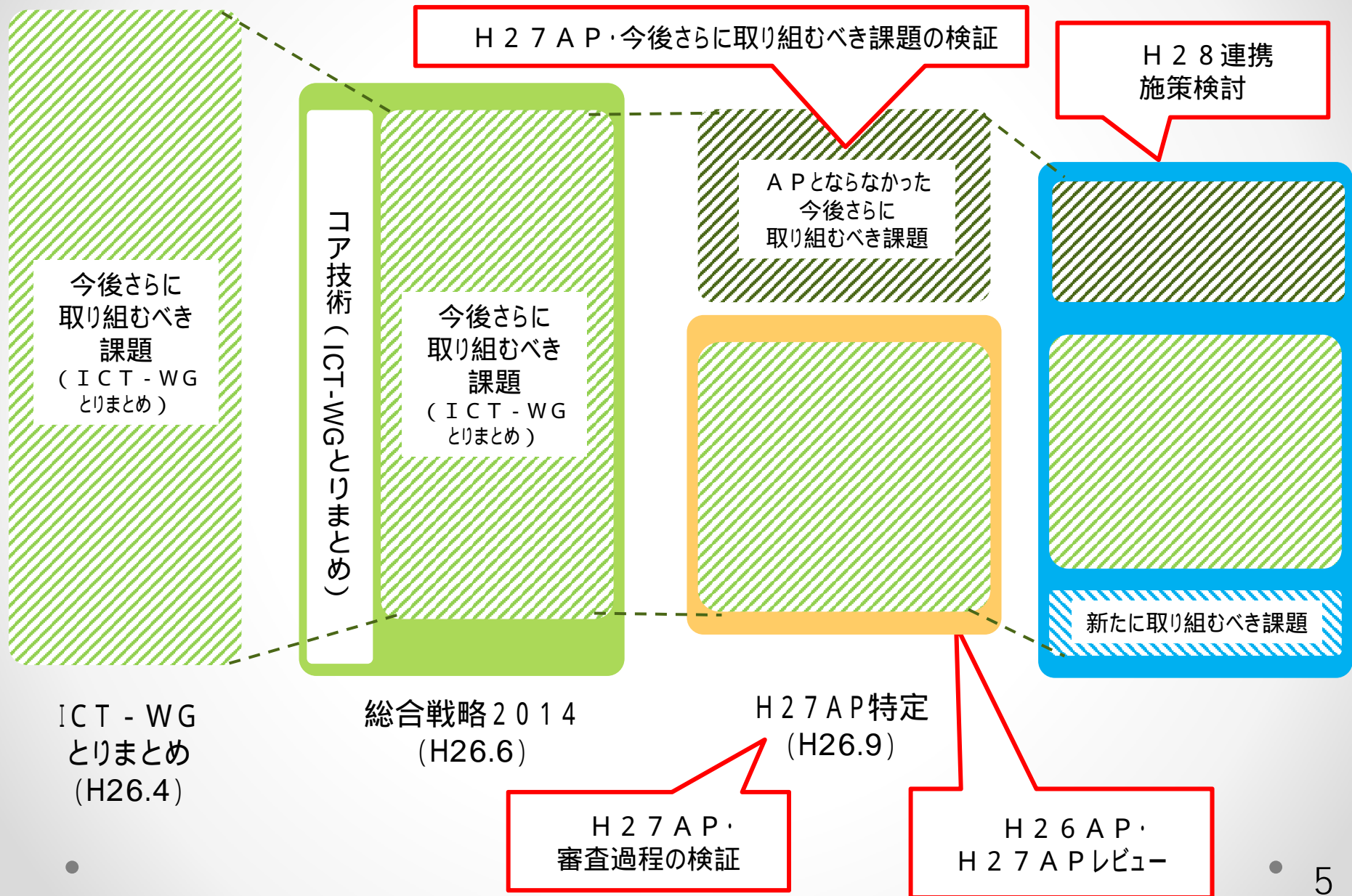
平成26年度、平成27年度アクションプラン（AP） 特定施策のレビューについて

第4回重要課題専門調査会
資料3（平成26年11月27日）

- ◆ 平成27年度APの代表的な連携施策に関して、予算見積もりを踏まえた連携の中身の確認を行うとともに、政府予算案を踏まえたH27AP施策の方針について昨年度とりまとめた助言の対応状況も踏まえた各府省からの対応状況説明、専門調査会（戦略協議会・WGを含む）構成員からの社会実装に向けた留意点等の指摘を通じて「助言」を取りまとめる。

	1 1	1 2	1	2	3	4
重要課題 専門調査会	【第1回】 検討方 針議論		【第2回】 戦略協 議会・W Gの検討 状況報告			【第3回】 助言とり まとめ
戦略 協議会 ・WG		【第1～2回】 H27APの予 算見積もりを踏 まえた連携の中 身について確認	【第2～3回以降】 平成26年度AP助言対応状況、H27政府予算案を踏まえた H27AP施策の方針確認 構成員からの留意点等の指摘 助言案とりまとめ			

審議事項 () の関係について



各回の議題（案）

回数	開催予定	政策課題解決への視点 (今後さらに取り組むべき課題)、 H27AP審議方法検証	H28連携施策検討	H26、H27AP レビュー
第6回	12/9 (火) 13:00- 14:30	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 政策課題解決への視点の振り返り ◆ 審議方法検証、H28AP審議に向けた改善議論 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ レビュー対象とすべきAP対象施策抽出
第7回	1/19 (月) 13:00- 15:30	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 構成員のとりまとめ意見をもとに、各省と共有 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各省からの施策取り組み状況説明(1)
第8回	2/17 (火) 13:00- 15:30		<ul style="list-style-type: none"> ◆ をふまえたH28AP議論(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 構成員による施策実施に向けた留意点の提示と各省との議論(1) ◆ 各省からの施策取り組み状況説明(2)
第9回	3/23 (月) 午後		<ul style="list-style-type: none"> ◆ をふまえたH28AP議論(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 構成員による施策実施に向けた留意点の提示と各省との議論(2)
第10回	4月上	◆ 報告書(案)とりまとめ		
第11回 (予備)		◆ 重要課題専門調査会報告(案)		

社会経済活動へ貢献するための知の創造

人の知識や物質情報等、多様なデータベースを統合し、組み合わせることで新しいモノ・概念を作り出し、社会経済活動に貢献する



個々人が社会活動へ参画するための周囲の環境からの支援

個々人の周囲を取り巻く情報機器が、あたかも感覚や感情を共有しているかのように動作し、個々人が意識することなく社会活動を周囲の環境が支える



基盤・ネットワーク

新たな価値を提供するためのより高度な基盤・ネットワーク

センサネットワーク等により収集されたあらゆる情報を用いて現実世界を仮想空間に構築し、現実世界を予測することで人々に新たな価値を提供し、全く新しいサービスを創造する



検討体制（「政策課題解決への視点」ご担当）（案）

- ◆ 昨年度のICT-WGでとりまとめた「今後さらに取り組むべき課題」は、総合戦略2014において、「政策課題解決への視点」として整理し、反映いたしました。
- ◆ 今年度のICT-WGの議論は、政策課題解決への視点ごとにご担当いただく構成員を調整させていただき進めさせて頂きたいと考えております。
- ◆ 誠に勝手ながら、事務局において先生方のご専門や、H27AP審査へのご参画状況等を鑑み、ご担当案を検討させていただきました。

政策課題解決への視点	お名前	ご所属
(1) 社会経済活動へ貢献するための知の創造	相田 仁	東京大学大学院 工学系研究科 教授
	江崎 浩	東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授
	川人 光男	ATR 脳情報通信総合研究所 所長
	佐々木 繁	株式会社富士通研究所 常務取締役
	村瀬 淳	日本電信電話株式会社 常務理事 先端技術総合研究所長
(2) 個々人が社会活動へ参画するための周囲の環境からの支援	新井 紀子	国立情報学研究所 教授・社会共有知研究センター長
	島田 啓一郎	ソニー株式会社 業務執行役員 SVP
	西 直樹	日本電気株式会社 中央研究所 主席技術主幹
	松澤 昭	東京工業大学 大学院理工学研究科 教授
	水落 隆司	三菱電機株式会社 先端技術総合研究所 副所長
(3) 新たな価値を提供するためのより高度な基盤・ネットワーク	石川 正俊	東京大学 情報理工学系研究科 教授
	土井 美和子	独立行政法人 情報通信研究機構 監事
	西村 正	東京工業大学 大学院理工学研究科 連携教授
	丹羽 邦彦	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 機構長補佐 シニア・リサーチ・アドミニストレーター
	渡邊 久恆	(株) EUVL基盤開発センター (EIDEC) 相談役

平成26年度ICT-WGの議論を進めるにあたって

- ◆ 平成26年度のICT-WGは、昨年度の重要観点とした、「デバイスとアプリケーションを相互連携した議論」を踏襲し、重要課題専門調査会が決議した審議事項の検討を進める。
- ソフトウェア・アルゴリズムなど上位のレイヤーからのアプローチからのみではなく、より物理レベルに近いデバイスの視点からもシステム全体を見直すという観点から、新たなイノベーションの種の創出を図る
- さらに、情報機器をデバイス単体としてのスペックの視点に留まることなく、それらを用いたシステムとしての視点からレビューを行うことで、デバイスからアプリケーションまで一気通貫した議論を行う

